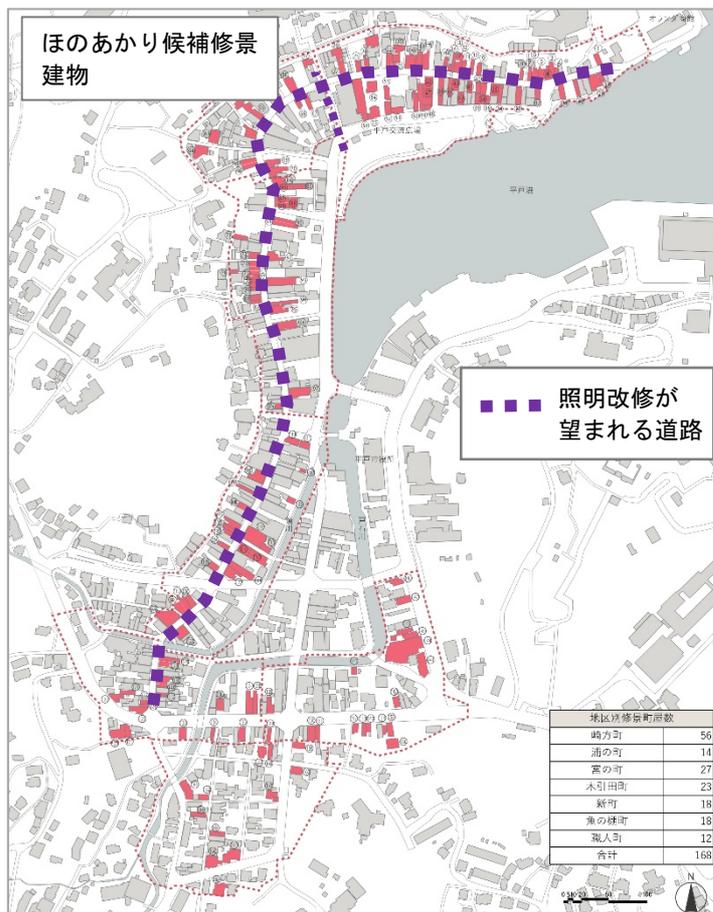


4-4. 平戸城下旧町地区の夜間景観形成

歴史ある平戸城下旧町地区は、長年にわたる努力によって建物外観のリノベーションが実施され、他のまちには無い、美しいまちなみ景観が実現しています。

そのまちなみを活かした新たな誘客の手法として「ほのあかり事業」が令和4年から平戸まちづくり運営協議会によって実施されています。民間建物のあかりの修景を活かし、エリアの魅力を最大化するためには公共照明の改善も必要です。



◆ほのあかり

歴史を感じるまちなみの魅力が伝わるような、優しい間接照明と低い色温度のあかりによる上質なまちなみ夜景を創出します。また、一階部分にはできるだけあかりを灯し漏れ光による安全安心をめざします。

◆公共照明

眩しさがきつい現状のナトリウム灯は、住居二階がまぶしいだけでなく、ほのあかりの演出にもそぐわない状況となっています。景観修景されたエリアでは、下方配光の道路照明がのぞましく、本エリアでもLED化の更新の機会を利用し、まちなみに調和する配光の器具に変更が望ましいと考えます。

	場所	計画内容
A	平戸城下旧町地区	168軒の修景町屋を中心に、5か年で50か所程度の照明演出町屋を創出する。特に、崎方エリアを中心に実装を進め、あかりの連なる様子を創出する（平戸まちづくり運営協議会によるほのあかり事業）
B	県道田ノ浦平戸港線	道路照明の光源改修（グレアが修景町屋にあたらない工夫） ※グレア：目に入る不快なまぶしさ
C	市道松浦資料館線	偉人像・マキのライトアップ、うで湯あし湯エリアの照明点灯（改修）
D	松浦史料博物館	階段部の夜間照明演出
E	路地	暗がりを払しょくする照明設置
F	職人町路地	狭い路地に適した照明設置

A) 平戸城下旧町地区（建物の照明）

◆めざすべき「あかりのまちなみ」イメージ



まちなみ修景によって整えられた建物外観の魅力を活かす「間接照明」と行灯や漏れ光を活かした絵になる夜間景観をめざします。

外観の改修ポイントである「白壁」「手すり窓」「庇」など個々の建物ごとの特徴を活かした演出をめざします。

◆ほのあかり照明デザイン手法の基本スタイル（例）

光源：LED（代表的機材：LED テープライト 2400K、露地行灯（屋外用）、屋外用吊り照明 他）

色温度：電球色（2400K～3000K）

給電：外部コンセント差し（無い場合は協議）

電気代負担：建物所有者

点灯時間：17:00～22:00

②二階高欄ですりから軒裏を照らします

（窓形状によっては最適ではない場合もあります）

①外壁の白壁部分などを間接照明で照らします

（木製の目隠板を利用してテープライトを隠します）

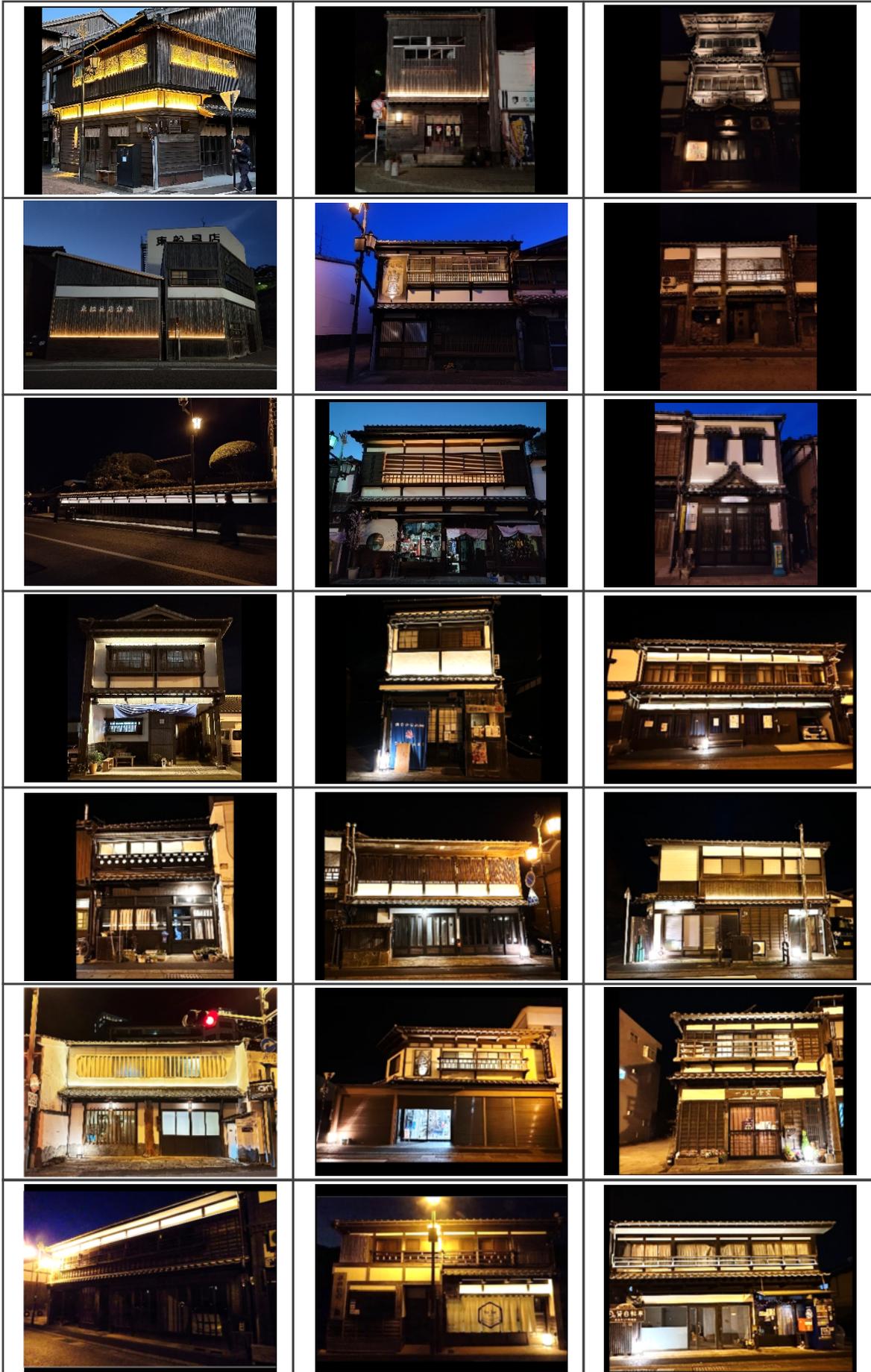


③軒先吊り照明

④露地行灯

⑤1階店舗は可能な限り点灯
（電球色が望ましい）

◆令和4年～5年度に照明が設置された建物



B) 県道田ノ浦平戸港線（道路照明の改善）

まちなみ修景が行われてきた平戸城下旧町地区のメインロードには、デザインされたクラシックスタイルの街路灯が整備されていますが、拡散照明のため建物に強く当たっており、町屋ライトアップ演出への影響は甚大です。また、二階に居住している場合は、窓への差し込みが強く遮光の必要がある状況です。

ナトリウム灯が強すぎて効果がわからない建物



効果をはっきりわかる建物



◆実施すべき手法

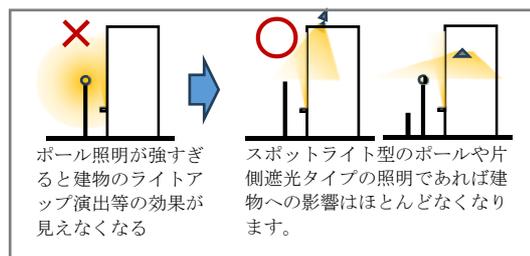
①両側ナトリウム灯の光源変更

オリジナルの照明器具であり、また南蛮イメージもあるため機材はそのまま継続使用も検討できます。光源のLED化と同時に、大幅に光束を下げ、既存灯体は「象徴としてのあかり」とすることもできます。

推奨：クリアLED電球15W（白熱電球100W相当）

※口金の変更（E39→E26アダプター利用）

安定器撤去、200V対応の可否等を検討



②ナトリウム灯の歩道側灯体の遮光

①に加え、建物側の灯体内部のガラスパネルに遮光パネルもしくはシートを設置し遮光する。もしくは、LED光源を40W相当クリア電球としぼんやり灯るようにする。

③路面用スポットライトの追加

ポール上部にLEDスポットライトを共架し路面の明るさと明るさ感を確保する。

灯具の仕様：2700k、5000lm程度 30°～40°

※楕円配光も可能



C) 市道松浦資料館線（歴史の道）

平戸港交流広場から松浦史料博物館を結ぶ、平戸城下旧町エリアの海から高台へと続く主要な道。道沿いには平戸ゆかりの偉人像と平戸を代表するマキが列植されています。平戸らしさがにじみ出るこの道にはうで湯あし湯のあるポケットパークもあるので、夜間のそぞろ歩きのポイントとなります。



現状

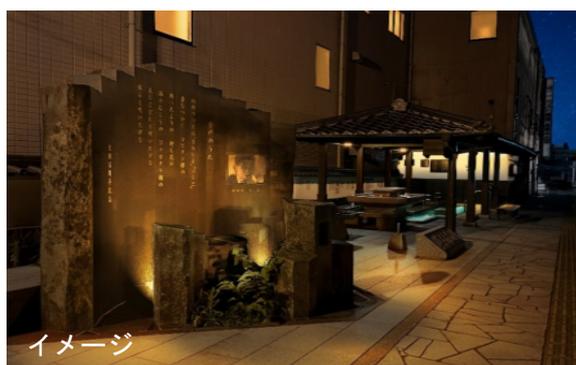


現状



令和5年度・社会実験時の様子

令和5年度の社会実験時の本エリアでのライトアップは好評で、常設化の要望も高いものでした。マキや偉人像に光があたることで、鉛直面の明るさ感が増し、街路の安全安心感も高まります。



イメージ

うで湯あし湯広場には照明設備があるものの、不点灯や不似合いなカラー変化が施されているので、設備の点検を実施し、まちの印象を整える必要があります。

計画内容	手法
偉人像のライトアップ	歩道路面にアップライトを埋設し照射
マキのライトアップ	植栽樹にスパイク式の小型スポットライトを配置。600lm程度・挟角
うで湯あし湯の照明	現状のプログラムを確認し、電球色での常設点灯に変更（固定色）
うで湯あし湯歌碑 他	機材の状態を確認し、ハロゲン電球の場合はLEDハロゲン型電球に交換
路地	暗がりを払しょくする照明設置
松浦史料博物館・階段部	樹木のライトアップ・石垣の演出（超小型照明・非埋設）他関係者と協議の上実施検討。タイマーにて自動点灯

D) 松浦史料博物館（民間）

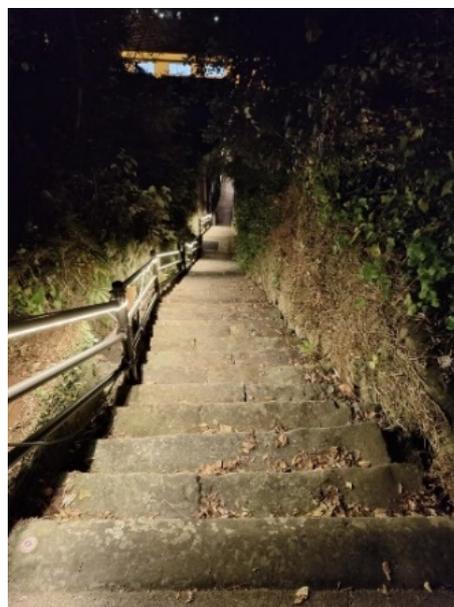
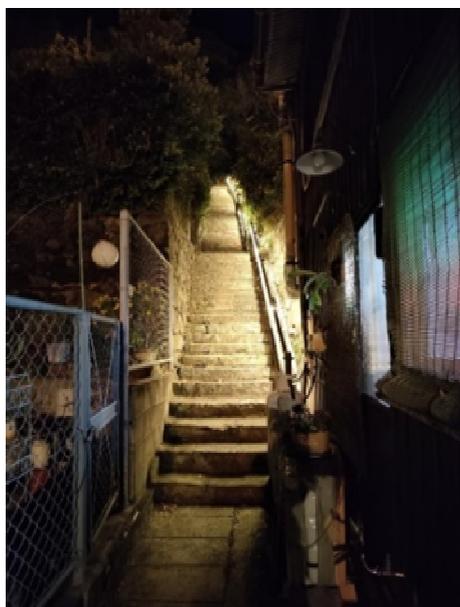
「歴史の道」の終点部にエントランスの階段が正対する施設のため、道からみあげた印象が観光地のイメージに大きく作用します。正面の樹木ライトアップ等に取り組んでいただきたい施設です。



E) 路地（地蔵小路・順智院道・鍛冶屋小路など）

公共照明の設置が難しい路地には、ソーラー方式の照明もしくは手すりなどを利用した路面照明が最適です。

特に階段部には、安全安心な明るさ感を得ることができ、令和5年度の社会実験でも階段路地での効果が確認できています。



LEDテープライトによる手すり間接照明の社会実験の様子。
大きな明るさ感を確保できています。

F) 職人町路地

職人町エリアは、路地が狭くまた敷地境界が迫っているため、公共照明の設置が難しく、ソーラータイプの照明などによって、危険な暗がり进行を解消することが望ましい状況です。

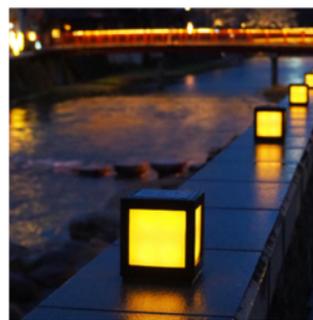
一般的にソーラー式の照明は光束が著しく低いので、普通的环境中では暗すぎるものが多いのですが、本エリアは路地が狭く、周辺からの影響光も無い暗がりであるために有効です。



ソーラー式足元照明器具（参考）



高洲海浜公園（浦安市）



長門湯本温泉（長門市）

4-5. 路地の安全安心の確保

A) 大ソテツ通り

樹齢400年と言われる大ソテツから名づけられた江戸時代初期からある旧道ですが、照明設備が少なく暗がりが見受けられます。

社会実験でも実施した、壁や石垣などを利用して、鉛直面の明るさ感を増やす工夫は有効ですが道路上のため設置方法の検討が必要です。



◆検討すべき手法

①自然緑化壁面への投光

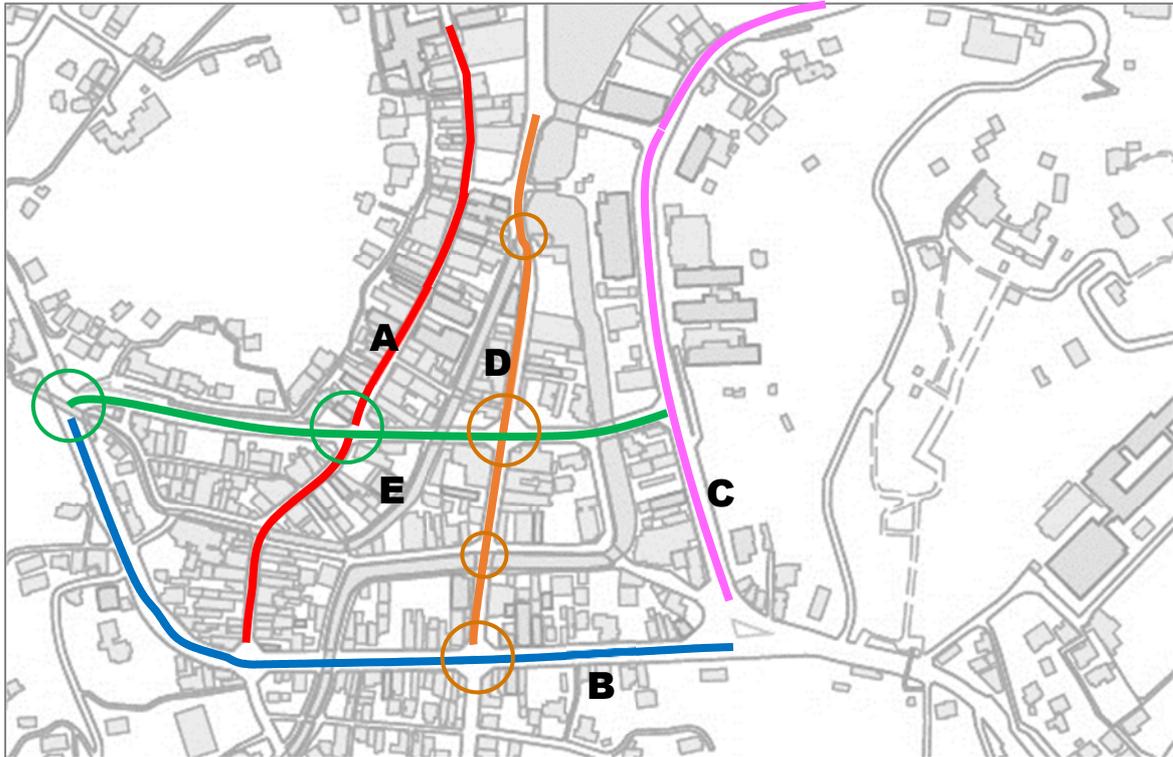
壁面の照射は、現有の環境を活かした魅力的な夜間景観の創出ができると同時に、大きな安心感が確保できます。

4-6. 主要道路環境の改善

現在の平戸城下旧町地区には、市民生活の安全安心と来街者の快適性向上の両面から、更新が必要な道路照明が多数見受けられます。

暗く危険な路地や、まちなみの美しさを阻害するような照明を改善し、快適で安全安心な誇りの持てる日常環境への更新を検討します。

ここでは、そういった道路空間それぞれに関して将来イメージを共有します。



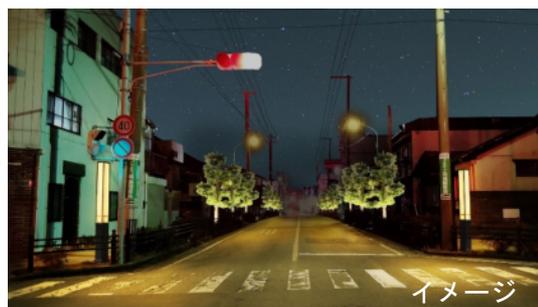
	場所	現在の道路の様子と問題点
A	県道田ノ浦平戸港線	伝統的なまちなみが修景されたエリア。修景町屋のファサード演出「ほのあかり事業」が進められている。道路照明はオリジナルのクラシックスタイル+ナトリウム灯。ナトリウム灯が強すぎて周辺の住宅2階がまぶしすぎる箇所がある。また「ほのあかり」の効果が見えないほど建物に光が当たっている。
B	市道亀岡・新町線	平戸大橋から中心市街地に最初に入ってくる道。街路灯はあるが間隔が広く暗さを感じる。また、マキの並木が印象的な道。冬季には民間によってイルミネーションが実施されている。
C	市道土肥町線、臨港線	白色の道路照明。マキの並木とツツジの緑化が整っているが夜景には活かされていない。
D	市道平戸・志々伎線 (築地町周辺)	海岸通りへと続く南北の幹線。照明は少なく暗く寂しい印象。
E	市道亀岡上町線	クラシカルなデザインの街路灯。光源は白色。

A) 県道田ノ浦平戸港線

※4-4章に記載しているため、ここでは割愛します。

B) 市道亀岡・新町線

道路照明は設置されていますが、35m以上の間隔で千鳥配置（兩岸交互に配置）のため徒歩での通行には暗い状況（一般的な歩道照明の間隔は20m程度）。道路照明の距離感を埋めるため、マキの木のライトアップを行うことで、鉛直面の明るさが増し、安全安心感は高まります。道路照明の色温度変更も重要です。



C) 市道土肥線、臨港線

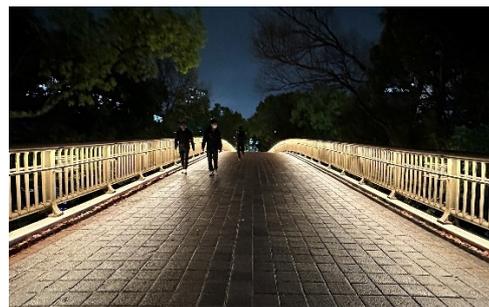
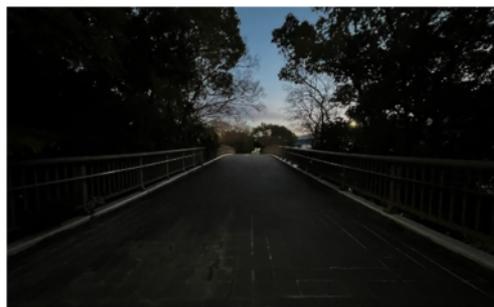
市道亀岡・新町線と同様の状態ですが、どちらもマキの並木は美しく手入れされており、平戸らしさを表す大切な要素です。樹木のライトアップと光源の色温度変更を組合せ、観光地らしい雰囲気をめざします。



D) 市道平戸・志々伎線

E) 市道亀岡上町線

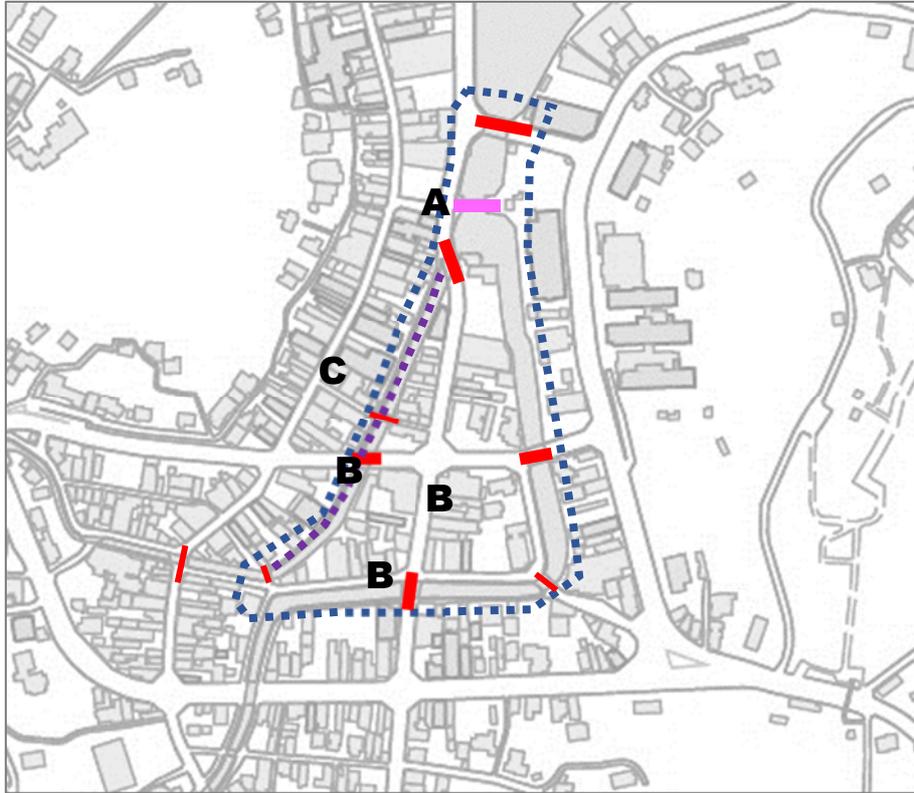
道路照明はありますが、本数も少なく歩道幅も小さいため照明柱が立てにくい環境です。交差点に下方配光の大型照明を配置し大きな明るさ感を見出すと同時に、橋梁の手すり照明など歩行者の明るさ感に寄与する照明の追加を検討します。



全く照明の無い環境であっても、手すり間接照明の効果は高いです。高欄にあたる光が大きな面照明となって安心感をもたらします。（神戸市）

4-7. 河川エリアの夜間景観改善

平戸城下旧町地区の南側は、築地の埋め立てにより水辺景観をつくっています。現在の河川沿いには照明設備が無く、橋梁にも十分なあかりがないので不安な環境となっています。水域という限られた条件の元、安全安心と水辺を活かした夜間景観を実現する手法を検討します。



	場所	現在の様子と問題点
A	幸橋	現状のライトアップは光量が幾分不足しており陰影に乏しい印象。
B	各橋梁	すべての橋梁は暗がりとなっており、歩きたい環境ではない。
C	河川敷通路	ほとんどの通路は暗がりとなっている。

A) 幸橋

現在もライトアップはされていますが、目的地としてのインパクトが希薄です。

特別な演出のある橋としてアップデートし、観光ポイントとしてレベルアップを目指します。



国内の石橋演出の事例



カラー機材を使って、催事に合わせた演出を実施

錦帯橋（岩国市）



単色の投光器で照射（幸橋と類似）周辺の手すり演出で一帯がフォトジェニックになっている

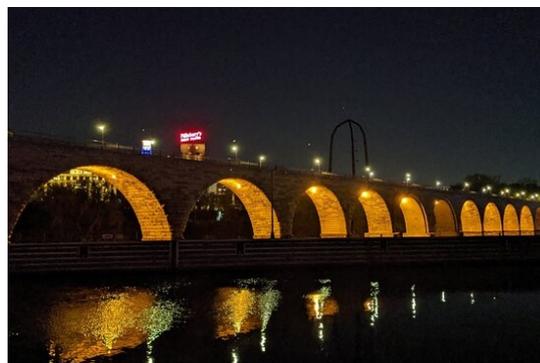
眼鏡橋（長崎市）

海外の石橋演出の事例



石橋の側面に映像を投影

（リヨン・フランス）



アーチの内側にカラー照明を溜めて印象的な風景をつくる

（ミネアポリス・USA）

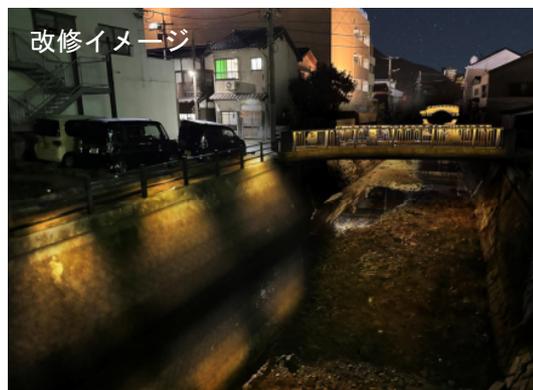
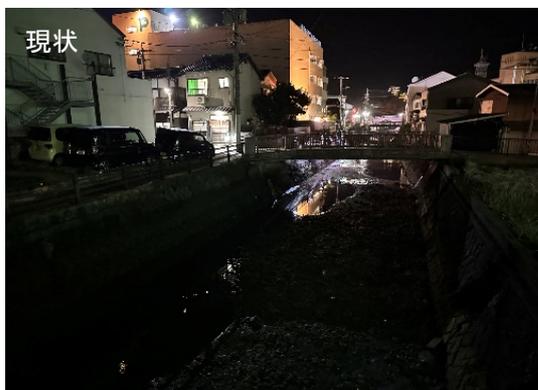
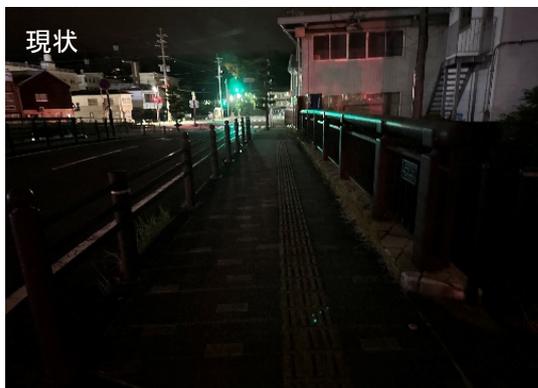
◆検討すべき手法

①ライトアップ機材の更新

B) 各橋梁

C) 河川敷通路

河川周辺の通路は、照明設備がなく、暗がりとなっています。
橋梁や道路の手すりを利用し、足元の明るさ確保をめざします。



4-8. 民間の取組による夜景ランドマークの拡充

平戸市内には、亀岡神社や寺院と教会が見える道、さらには神社仏閣や庭園など、景観資源である民間施設が多数点在しており、豊かな歴史文化を伝えるものばかりです。

これらの建築物の中にはライトアップが実施されているものもありますが、さらなる民間によるライトアップの取り組みによって、夜景ランドマークの拡充を図り、オール平戸での夜間の魅力づくりが促進されるように検討していきます。